

おいしい書館 No.24

市内図書館

小金分館めぐりⅣ

北小金駅前開巻に併い、小金支所が移転した後を小金分館として改造した所です。面積二五〇坪で今までの三倍近くになりました。書架も倍めになって、全体に明かるい感じがとても良いです。書架の間も広くなり、見学してきた他市の図書館に一番近づいた感じですよ。空間はゆったりしました。書架が低くなつた分、蔵書はあまり増やせません。それでも現在二二二三冊

(七二九二冊児童書と、三万冊近く収容能力があるそうですから、そこまて増えれば、一層利用し易くなるでしょう。新しく展示コーナーが作られ書画が掛けられています。新しい試みで期待されます。

奥に、あじさいの部屋、という読み聞かせの部屋があります。ボランティアグループが定期的に開いてますが、開催のたびに子供たちが増えて、部屋の外にある大きな四角いソファに座って聞いています。今までの松戸の分館とは見られないうれしい光景です。この分館には紙芝居も二三組あり、子供たちに入気があるそうです。



元山田

七月から、ボランティアによる対面朗読も始まっているというところ、改めて、四十冊収容の明かるいゆつたりした分館がほしいと思えました。

新松戸分館

けやき通りに位置するこの分館は、マンションが立ち並び住宅街と新松戸駅の途中にあり、学校、保育園も近く、子供たちは幼児から図書館の利用に慣れる理想的な場所です。広さは一五四坪、蔵書三三、五八四冊(内一三、六〇二冊児童書)と、登録者は分館でト、ラです。利用人数の割に条件が良い訳ではありませんが、さすがに貸出しは分館の中が一番で、予約件数は本館を越えています。

最近は男性の利用者が増え、経済関係の手約が多いそうです。見学に行った日も数少ない席に男性の方が調べものをしている姿が印象的でした。さぞ蔵書の量に対する不満があるのではないでしょつか。せめて、利用者が自由に使える検索機がほしいです。

児童書の予約が他の分館の三倍から十倍もあるこの図書館ですが、流山の図書館が使い易いとお隣りを利用する人が増えているようです。「本屋にない本も探せるのが図書館です。身障の方や、色々な方に来てほしいです。」と話してくれた司書の方の思いが



広がると思いきいと思いました。

小金原分館

小金原分館は、小金原団地に隣接する市民センターにあります。先日の分館めぐりの際は時週の都合で寄れなかつたので、後日

教入で訪れました。面積は一八八坪で、小金分館が改造される前は分館の中が一番広い分館でした。蔵書は四万四千冊近くあり、児童書は約一万五千冊で、分館が一番多く所有しています。ところが、収容能力三万六千五百冊なのですから、いかに多くの本がぎっしり詰まっているか想像がつくと思います。圧迫感はありませんが、この位蔵書があれば読書意欲が湧いてくると言えないこともありません。休日に来

館した時、ぶつかり合うように利用者が出て、本も人も一杯だった記憶があります。

ここには三十二の座席があり、分館が一番多い所数です。どの分館も本を広げてみるスペースが少ないことが大変残念です。

分館を見て歩いて、どの分館もよく利用されていて、歩いて行かれる分館の存在意義を十分に果していると思えました。市民の気持から言えば、やはり、利用の多い分館地区（常盤平・小金原・新松戸）に地区館が必ず要ということがよくわかりました。(磯村老忠)



発行 「おーい図書館」
連絡先 青木和子

松戸市総プロ八三〇・二六〇
〇四七三(六七)五三八四